

小学校 6 年 放送番組をもとに「多面的にみること」を鍛える方法を探る

～放送番組「昔話法廷」から始まる学びとは～

兵庫県たつの市立新宮小学校 石堂 裕

【実践報告の概要】

放送番組「昔話法廷」は、子供たちの知る切り口とは異なった2つの視点から昔話をとらえている。朝の学習タイム（15分間で週に1回）や自宅でのオンデマンド学習を設定し、番組をもとに「多面的にみること」のよさを整理した。そこから得た手続き的な知識を、国語や社会科などの教科学習や総合的な学習の時間に意図的に取り入れる経験を積み重ねながら、その都度、記述による評価を行い、子供たちの「多面的にみること」を育もうとした実践である。

【取組の具体】

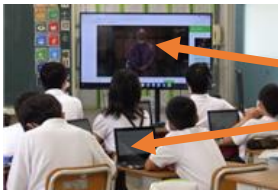
活動の流れ

※記述はクラウド上の協働学習ツールに書き込む。

【6月～7月：習得期間】

- ①週1の朝の学習タイムを利用する（15分番組）。
- ②自宅でのオンデマンド学習（20分番組、33分番組）での作文をもとに、意見交流する。

※本実践における工夫点参照



【学習環境設定：①の場合】
モニターで番組視聴

協働学習ツールへの書き込み

②でのA児の記述より

ぼくは昔話法廷を見て、多面的にみるのが大切だと思う。多面的にみることは、壁で例えると表から見ていた絵が、裏から見ると反対の絵で違うように見える。さるかに合戦などの昔話は、多面的に見ると考えていたことが異なる。さるかに合戦では、猿がカニを殺したことは事実だから罰を受けるべき。しかし、その猿から見ると異なった。社会の授業で、朝廷ばかりにスポットライトを当てていたのが農民にスポットライトを当てると意見が変わった。

このように、多面的にみると違うように見える。だから多面的に見ることは大切だと思う。（原文のまま）

【8月～1月：活用期間】

- ・総合「わがまち見聞録」の学習では、複数の資料読解を試み、日本遺産「北前船」を多面的にとらえることを意図的に仕組む。
- ・社会科や理科では、教科の見方・考え方を働かせながら、複数の視点を挙げて、広く考えたり深く考えたりする。
- ・国語の物語の授業では、同一著者の複数の作品から、著者の魅力に迫り、レポートにまとめる。

【7月～1月：「多面的にみること」を自己評価する】

- ・記述による評価を蓄積し、学習者の意識を見とる。

B児の記述より

私も、5年生の時までは「多面的に捉える」ということが出来ていなかったけれど、昔話法廷が「多面的に捉える」ことの一つのきっかけとなった。それは、どのお話でも、正面から見ると、お話通りだけれど、横や後ろから見ると想像とは違っていた、ということがある。だから、これからも多面的に捉えることを大切にしようと思った。（原文のまま）

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「昔話法廷」

この番組は、子供たちのよく知っている昔話の登場人物が裁判されるストーリーで、1つの出来事を2つの視点から捉えて、議論する構成である。

社会科学習で、裁判の知識がある6年生の子供たちには理解しやすい構成であり、さらに、昔話とは異なる予想しなかった展開に関心の高まる子供たちは、番組構成とつながる「多面的にみること」を意識しやすくなると判断した。

【本実践における工夫点】

番組利用

番組が15分、20分、33分とあり、この特徴を活かすために、次の2つの学習を仕組む。

- ①「朝学習タイム（週1金曜）としての活用」
15分番組の利用
 - ②「自宅でのオンデマンド学習としての活用」
20分番組と33分番組の利用
- また、①と②は、次の異なる学習展開とする。
- ①番組を視聴しながら、同時にチャット的な短文を協働学習ツールに書き込む。記述をもとに次週の朝学タイムで意見交流する。（2週間で1話題）
 - ②木曜日にオンデマンド学習で視聴し、200字作文を協働学習ツールに書き込み、翌日の金曜日の朝学習で意見交流する。

汎用的に意識できるように

「多面的にみること」を教科学習や総合的な学習に意図的に仕組み、月1回、自己評価する。

【本実践の成果と課題】

主な成果を2つを紹介する。

- 番組が理解しやすく、①では、記述内容を3つ（内容、場面、見方・考え方）に分類できた。内容面について、番組同様の対立した意見で議論することができ、その経験が「多面的にみること」を自覚化するきっかけになっている。また、②では、「一方」という言葉を用いた文章記述が増えた。これも「多面的にみる」効果が発揮されたと理解している。
- 「多面的にみること」を他教科や総合に意図的に仕組んだことで、子供たちは、それを意識して思考していることが、自己評価から読み取れた。